

少年消防クラブニュース

発行/ 財団法人 日本防火協会
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
 (日本消防会館内)
 TEL 03(3591)7121
 FAX 03(3591)7130
 http://www.n-bouka.or.jp
 (季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社

少年消防クラブ指導者研修会の開催概要について

少年消防クラブ活性化推進会議

少年消防クラブ活性化推進会議(委員長・秋本敏文(財)日本防火協会会長・(財)日本消防協会理事長)では、去る2月11日(土)と12日(日)の2日間にわたって、全国88のモデル少年消防クラブの指導者を対象とした「少年消防クラブ指導者研修会」(約1000名が参加)を東京都内で開催しました。

今回は特に、モデル少年消防クラブのうち、全校で防火防災教育に取り組む宮城県気仙沼市立階上中学校の教師と生徒による、東日本大震災の時の体験や避難活動を中心とした生々しい体験報告がなされ、参加者の多くが、将来の地域防災



秋本敏文委員長



山口英樹防災課長



石田善顕専門官

において開催できるように計画している旨の挨拶がありました。また、文部科学省スポーツ・青少年局学校教育課の石田善顕学校安全対策専門官からは、これからの学校における防災教育の方向として、①主体的に行動する態度を目指すこと、②支援者となる態度を意識づけることの2点を地域と連携して定着させていきたいとの挨拶がありました。

開会に先立ち、ちょうど11か月前の東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするため、黙とうを捧げました。次に、秋本敏文委員長から、「東日本大震災で、子供たちに防災の勉強をしてもらうことの大変さを経験した。平成22年度から選定してきたモデル少年消防クラブの活動を整理して、これを今後の、全国の少年消防クラブの一般的な活動の中に活かしていきたい。また、昨年のシン

ポジウムで参加者からご発言のあった、少年消防クラブの全国大会は、いろいろな課題があるが、私たちとしても何とか実現できればいいなど思っている。」との主催者挨拶がありました。来賓挨拶として、総務省消防庁山口英樹防災課長から、参加者に対する日頃からの少年消防クラブの指導に対する御礼の言葉があり、平成24年度には、全国の少年消防クラブ員と交流を深める交流会を東北地方

「階上中学校の防災学習は、今年で7年目になります。災害時に大切とされる「自助」、「公助」、「共助」のテーマを1年ごとに実施し、中学校生活3年間を通して、災害発生時に対応できる力を養うことを目的としており、特に力を入れて

ことができませんでしたが、状況がつかめず、落ち着かない様子でした。また、トイレの水が流れず、バケツを使いプールから水を汲んで流したり、歩くことが大変なお年寄りの方々のお手伝いをしたりと、僕たちにできることを行いました。発電機を使い、わずかな照明はありましたが、寒さと不安で、なかなか眠れない夜を過ごしました。

足禁止にしました。6日目には、朝の体操や朝食の時間、全体集会、夕食の時間などのタイムスケジュールを決めて、生活のリズムが落ち着いてきました。7日目は、校舎内の一斉清掃を行い、全面土足禁止になりました。避難所の環境を清潔にすることで、風邪やインフルエンザなどの感染症予防に努めました。

特に、防災マップの作成では、全校生徒が各地区の班に分かれ、今回の震災による浸水エリア危険箇所などを調べました。海拔15mの等高線のエリアが今回の浸水エリアと一致していたことから、海拔20m以上の浸水エリアと一致していたことから、海抜20m以上の避難場所や経路の確認、そして、地図に表示されていない細い道からの最短避難経路も確認しました。これらの実地調査をもとに、防災マップを作りました。更

の担い手としての少年消防クラブの更なる発展の必要について報告します。

1日目 活動報告・訓練披露



その後、活動報告・訓練披露に入りました。その概要は次のとおりです。

(1) 活動報告①

東日本大震災での体験「私たちは未来の防災戦士」と題して、宮城県気仙沼市立階上中学校少年消防クラブを代表して2年生の佐藤龍一君と三浦泰貴君及び少年消防クラブ担当の大野博之教諭の3名から次のように活動報告がありました。

このような大震災の経験を通して、今年度の階上中学校の防災学習では、災害から自分の身を守ることを強く意識し、「自助」の活動に取り組みました。全校生徒や卒業生、避難所の方々にアンケートを実施し、災害発生時の被害を最小限にするために、改めて「自分自身ができること」を考えました。その内容が、①災害用伝言ダイヤル171の活用、②非常時用持ち出し袋の考案、③今回の浸水エリアを踏まえた高台と最短避難経路を改めて確認するための防災マップの作成、



NHKのインタビューを受ける階上中少年消防クラブ



活動報告





左から佐藤龍一君、三浦泰貴君、大野博之教諭

に、これまでの活動を通して学んだ災害時の心構えを防災3ヶ条として地区ごとに考えました。これらの防災マップは各地区の家庭に配布されます。ちなみに、森前林地区の防災3ヶ条は、「一、津波でんでんこを守るべし」「一、想定にとらわれないべし」「一、率先避難者になるべし」です。今年度の総合防災訓練では、緊急地震速報システムを活用した避難訓練を行いました。また、防災マップをもとに、より安全な避難場所や経路について、小学生と一緒に確認しました。12月には、保護者や地域の皆さんに今年度の防災学習の発表会を開き、災害発生時には、自分たちが防災学習から学んだことを活かし、それぞれに避難するので、保護者の方々も危険な場所に戻らず、それぞれに避難して身の安全を確保してください、と確認することができました。』



階上中少年消防クラブ(向かって左)と矢口消防少年団の初対面

最後に、東日本大震災での体験を通して、伝えていきたいことが次のように発表されました。

『過去を悔やまず、生き残った我々が、助け合うことの大切さと皆で乗り越える努力をして、これからも未来へと歩んでいきたい(佐藤龍一君)。
亡くなった方々の悔しさ、無念な気持ちを胸に秘め、将来、消防士になって、1人でも多くの人を助けたい(三浦泰貴君)。
全国、全世界からいただいた「絆」は、眼では見えないが、心と身体で感じました。復興に向けて、努力していくことで恩返ししていきたい。そして地域のために、将来の防災リーダーとして次世代を担う子供たちをリードしながら活躍していきたい(大野博之教諭)』

報告後、大震災直後に応援メッセージや学用品等を贈った東京都矢口消防少年団のクラブ員との初交流が実現し、固く手を結び合いました。

階上中学校の活動報告(動画)については、3月中旬に日本消防協会のホームページ(www.nisssho.or.jp)に掲載される予定です。

東京都小岩消防少年団と矢口消防少年団の協力により、中・高校生少年消防クラブ員を対象として、災害図上訓練(DIG)(講師・川崎市消防防災指導公社中村敏一事務局長)と小学校高学年の少年消防クラブ員を対象として、応急手当入門コース訓練(講師・川崎市消防局救急救命士3名と静岡県女性防火クラブ鈴木博子副会長)が披露された。その様子を見学しました。

この2つの訓練は、少年消防クラブ指導者研修会で

は初めてのことで、全員熱心に学びました。また、当日の配付資料として、上梓されたばかりの応急手当入門コース「少年少女のための入門応急手当」(発行・日本防火協会)の説明がありました。

活動報告2

青森県十和田高校少年消防クラブの会津淳也クラブ顧問、兵庫県神戸市ひよどり台防災ジュニアチームの林喜久治ひよどり台防災福祉コミュニティ委員長、東京都大田区矢口消防少年団の丸山副団長から活動報告がありました。その内容は次のとおりです。

①十和田高校少年消防クラブ 発表者：クラブ顧問 会津淳也

平成23年8月、青森県で2校目となる高校生の少年消防クラブが、8名のクラブ員で結成されました。クラブの活動目標は、学校の行事に組み込まれている避難訓練(2回)と防災訓練(1回)を少年消防クラブの活動と連動させ、クラブ員と全校

②ひよどり台防災ジュニアチーム 発表者：ひよどり台防災福祉コミュニティ委員長 林喜久治

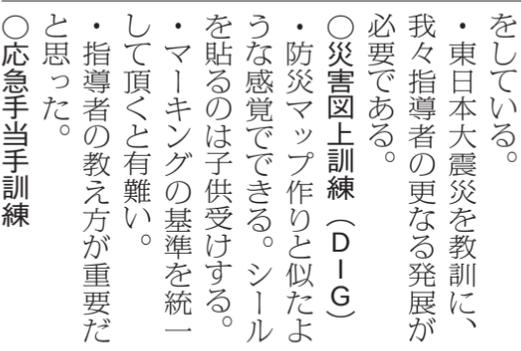
阪神・淡路大震災から6年の平成13年8月に、神戸市で2番目の防災ジュニアチームとして中学生を中心に結成されました。160名の小学生が実践的な防災訓練を行っています。特に、月1回の震災復興住宅での防災訓練への参加を積極的に呼びかけ、意義のある防災訓練として実績をあげています。

③矢口消防少年団 発表者：副団長 丸山 広

昭和53年3月に発団し、33年の歴史があります。30名の団員で構成されています。地元小学校3年生から中学3年生までの子供たちが毎月1回から2回、日曜日を中心に、地域の防災力の向上を目指して、歳末の夜警、D級可搬ポンプ操法や初期消

火訓練の展示などの活動を行っています。

東日本大震災の際は、被災地のために何ができるのか、と考えて、宮城県気仙沼市の階上中少年消防クラブへ応援メッセージを作りました。学用品等を贈りました。また、「稲むらの火」の紙芝居を手作りで作りあげて、管内などで発表して、津波の恐ろしさを伝承しております。



意見交換

2日目も、前日と同じ会場で開催しました。最初に、推進会議事務局から、平成24年度のモデル少年消防クラブの事業説明がありました。

次に、参加者がAからDの4班に分かれて意見交換を行い、その後、各班で話し合われたクラブ運営上の課題などについて、4班の代表が発表しました。

今回取り上げられたクラブ運営上の主な課題等は、次のとおりです。

- ・生徒たちが自ら考え行動できたこと。日頃からの継続した活動の大切さを改めて感じた。
- ・生徒に実践的な活動をさせていたのはすばらしい。今までリアリティがない中で活動しているのは反省しなければならぬ。
- ・自分たちでできることは自分たちで考える」と結んだことは印象的。
- 東日本大震災の教訓として
 - ・「防火」活動は行っても「防災」活動はできていないので、活動自体見直す必要がある。
 - ・高所避難訓練を3回行い11分で避難できた。津波は5分である想定なので、更に頑張ろうと思う。
 - ・班を指定して、高学年が低学年を引率して行く訓練をしている。
 - ・東日本大震災を教訓に、我々指導者の更なる発展が必要である。
 - 災害図上訓練(DIG)
 - ・防災マップ作りと似たような感覚でできる。シールを貼るのは子供受けする。
 - ・マーキングの基準を統一して頂くと有難い。
 - ・指導者の教え方が重要だと思った。
 - 応急手当訓練

担い手として、社会に貢献できる大人になることを目指していきます。

活動報告2の後、夕食を兼ねた情報交流会が行われ、熱心な議論は夜9時近くまで続きました。

2日目 意見交換会

今後、首都直下地震などの発生が危惧されている災害に備え、高校生の指導者(サブリーダー)や消防少年団員が同年代の防災リーダーとなり、自助、共助を高め、将来の地域防災の

- ・子供への接し方が大変参考になった。
- ・10歳以上といわずに低学年から講習をすれば自然と身につくと思う。
- ・応急手当を入口として、防災への意識を育めるのではないか。
- ・指導者(研修受講者)も体験できると良かった。
- 活動計画、活動時間
 - ・活動計画の固定による、マンネリ化に苦勞している。
 - ・勉強や部活との関係で活動時間の確保に苦勞している。
- クラブ員の確保
 - ・ジュニアリーダーの活用が必要。
 - ・東京では、市内の校長会の場に消防署担当者が出席して募集依頼している。
 - ・児童館、図書館、コミュニティセンターなどにも募集ポスターやチラシを配っている。
 - ・市のホームページや広報紙等で紹介して貰っている。
- ・校長会、市の教育総務課にもお願いしている。
- ・地域のお祭りに参加してアピールしている。

- ・意見交換会を初日に行った方が、より交流することができた。
- 意見交換会の結果発表の後、2日間にわたる研修会の修了証が秋本委員長から参加者に渡されました。
- 最後に、研修会の講評と閉会の挨拶が日本防火協会の吉田哲理事長からありました。
- 研修会終了後のアンケート結果では、多くの参加者から好意的な評価をいただきました。少年消防クラブの指導者としての参加者間で、活動上の課題や情報の共有を図り、特に、東日本大震災の教訓を今後の活動の充実につなげていくという、本研修会の目的は達成できたのではないかと考えています。
- 少年消防クラブ活性化推進会議では、今後とも、皆様のご意見を踏まえながら、積極的な情報の提供に努めて参ります。



（本紙の既刊号は、日本防火協会のホームページ（www.n-bouka.or.jp）からご覧いただくことができます。）

少年消防クラブの活動

東月寒少年消防クラブ

指導部長 乙川 明

北海道
札幌市社会福祉協会の「独居高齢者宅」に福祉除雪協力として市に登録し、災害時の緊急避難路確保のため、お年寄りや体に障害が

当クラブでは、ある方など除雪の問題により冬期間の生活に不自由さを感じている方に対して除雪を行い、1シーズン21,000円の報酬をいただいております。

このボランティアは、12月1日から3月25日までの

僕の町の消防団

第11回全国中学生防火防災に関する作文コンクール（日本消防協会主催）に、徳島県の「半田中学校少年消防クラブ」のクラブ員三好利光君が、見事入賞されましたので、ここに紹介します。（挿入写真は、防火防災訓練の様を半田中学校から提供いただいたものです。）

徳島県 つるぎ町立半田中学校三年 三好利光

昨年、半田中学校少年消防クラブが結成され、僕達二年生四十三名が消防クラブ活動を行いました。消防団の方々や、消防署の方、地域の人達、保護者の方や学校の先生に参加していただき防火防災訓練を行いました。一人一人に支給された消防服に着替え、運動場に集合しました。隣には、第八分団の消防団員さん、地区のお年寄りが並んでいます。

訓練を積み重ねている団員さんは、とてもきびきびとした動きで、かっこよく見えました。お年寄りの方もこの日の為に喜んで参加してくれました。僕も「負けずに頑張るぞ」と気合いが入りました。

放水の練習や、消火の訓練、地震に備えての訓練、震度にあわせてその揺れのすごさを味わえるコーナーもあり、体験させてもらうことができました。

「もし実際に、こんな事が起きたら。」と考えると、「いや、大丈夫だろう。」と疑いをもったかもしれません。

けれど、地震はいつくるかわかりません。三月に起きた東日本大震災で、日本中のみんなが心配し、力を出し合い、助け合っています。義援金も集められ、協力しようと思死です。

僕が住んでいるところも、安心してはいられません。少年消防クラブの活動を通して、いろいろな知識を身につけ、学んでいこうと思っています。

お年寄りの方達も、一生懸命訓練に取り組んでいました。避難訓練の時、手を取り、一緒に歩くと大変喜んでくれました。質問の時には、いろいろなことを尋ねていました。真剣に取り組んでいる姿に感動させられました。それと同時に、僕達は、いざという時、お年寄りや小さい子供達を助ける側なのだという責任感が芽生えました。

一月には、河川敷で出初め式があり、半田中二年生全員も参加させてもらう事ができました。消火作業の演習を見せてもらったり、お手伝いをさせてもらったりして貴重な時間を過ごすことができました。消防団の方の機敏な動きにあこがれ、見入っていました。

「いざ出動」という時の為、訓練は真剣です。僕も学んだことを大切に守り、これからの生活に役立てていきたいと思っています。

お年寄りも、大人も、僕達中学生も、共に訓練出来たことを嬉しく思っています。そして、もし地震や台風などの災害が起きた時、少しでも被害を少なくするために訓練を活かしたいです。



太陽わらべ太鼓少年消防クラブ

事務局 黒澤ちひろ

北海道
北見地区幼年少年婦人防火委員会では、北見地区消防組合消防本部が実施する歳末火災特別警戒（12月15日～12月31日）に合わせ、防火意識の高揚を

この事業の目的は、クラブ員に社会奉仕の大切さ、皆が一人のために行う意義、クラブ員の結束士気向上です。

上のため、そしてクラブ財源確保のために大いに役立っています。

地域の人々から「ありがとう！」の声がかえってきています。

図ることを目的として、毎年「防火もちつき」を開催しています。

太陽わらべ太鼓少年消防クラブの子供達も委員会の一員として「防火もちつき」において住宅用火災警報器





「タオルうさぎ」(タオル一本と輪ゴム一本で作ったもの)を、団員が心をこめて手作りし、ミニメッセージをつけてプレゼントしました。「おば

あちゃんが顔をしわくちゃにして、ありがとうね!と言ってくれたよ」「おじいちゃんに、かわいいうさぎだね!と言われたよ」などと、帰り道で、団員の晴れやかな声が聞こえています。また、11月には、西東京

真新しい活動服に身を包み、最初は緊張した面持ちではありましたが、来場される市民の方ひとりひとりへちらしを手渡し、一生懸命に住宅用火災警報器の重要性を訴えていました。顔の知らない方へ話し掛けることは非常に勇気のいることだとは思いますが、ひとり、またひとりと話し掛けるうちに自分の中の自信も高まっている様子でした。また、催し物のひとつとして、わらべ太鼓の演奏も披露し、お腹に響き渡る力強い音で日頃からの練習成果を発揮していました。これからも色々な体験を通して、防火防災の知識を習得し、幅広い視野を持って活動し、市民に愛される少年消防クラブに育って欲しいと思います。

信も高まっている様子でした。また、催し物のひとつとして、わらべ太鼓の演奏も披露し、お腹に響き渡る力強い音で日頃からの練習成果を発揮していました。これからも色々な体験を通して、防火防災の知識を習得し、幅広い視野を持って活動し、市民に愛される少年消防クラブに育って欲しいと思います。

また、11月には、西東京

あちゃんが顔をしわくちゃにして、ありがとうね!と言ってくれたよ」「おじいちゃんに、かわいいうさぎだね!と言われたよ」などと、帰り道で、団員の晴れやかな声が聞こえています。また、11月には、西東京

また、11月には、西東京

また、11月には、西東京

また、11月には、西東京

また、11月には、西東京

また、11月には、西東京



また、11月には、西東京

また、11月には、西東京

また、11月には、西東京

宝くじは、
地方自治体の公共事業等に
幅広く使われています。

NEW!
ワクワク、続々。

あなたに夢を。街に元気を。

クーちゃん 宝くじ

宝くじの収益金は、
病院や検診車、図書館や動物園、
災害に強い街づくり、
緑あふれる公園、美術館など、
皆様の暮らしに役立てられています。

財団法人 日本宝くじ協会